

心理学理論と心理的支援

問題 8 次のうち、馴化による行動の記述として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 同じ大きな音が繰り返されるにつれて、^{じゅんか}驚愕反応が小さくなった。
- 2 乳児に新しいおもちゃを見せたら、古いおもちゃよりも長く注視した。
- 3 まぶたにストローで空気を吹き付けると、思わずまばたきした。
- 4 食あたりした後に、その食べ物を見るだけで吐き気がするようになった。
- 5 うまくできたら褒めることで、ピアノの練習に取り組むようになった。

問題 9 パーソナリティの理論に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 クレッチマー(Kretschmer, E.)は、特性論に基づき、体格と気質の関係を示した。
- 2 ユング(Jung, C.)は、外向型と内向型の二つの類型を示した。
- 3 オールポート(Allport, G.)は、パーソナリティの特性を生物学的特性と個人的特性の二つに分けた。
- 4 キャッテル(Cattell, R.)は、パーソナリティをリビドーにより説明した。
- 5 5因子モデル(ビッグファイブ)では、外向性、内向性、神経症傾向、開放性、協調性の5つの特性が示されている。

問題 10 愛着理論に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 乳幼児期の愛着の形成により獲得される内的ワーキングモデルが、後の対人関係パターンに影響することは稀である。
- 2 ストレンジ・シチュエーション法では、虐待など不適切な養育と関係のある愛着のタイプを見いだすことは難しい。
- 3 愛着のタイプに影響を及ぼす要因には、養育者の子どもに対する養育態度だけでなく、子ども自身の気質もある。
- 4 子どもの後追い行動は、愛着の形成を妨げる要因になる。
- 5 乳幼児期の子どもの愛着対象は、母親に限定されている。

問題 11 前期高齢者(65～74歳)における認知機能や知的機能の一般的な特徴について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 作動記憶の機能は、加齢による影響が顕著にみられる。
- 2 エピソード記憶の機能は、加齢による影響がほとんどみられない。
- 3 意味記憶の機能は、加齢による影響が顕著にみられる。
- 4 流動性知能は、加齢による影響がほとんどみられない。
- 5 結晶性知能は、加齢による影響が顕著にみられる。

問題 12 ストレスに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コーピングとは、ストレスの原因となる出来事のことである。
- 2 日常の些細な^{ささい}いらいら^{さい}がちごとが積み重なっても、健康を損なうようなストレスは生じない。
- 3 ストレッサーを制御できるという信念は、ストレスの緩和にはつながらない。
- 4 アパシーとは、ストレス状態が続いても、それに対処できている状態のことである。
- 5 ハーディネスとは、ストレスに直面しても健康を損なうことが少ない性格特性である。

問題 13 ストレス反応の1つであるバーンアウトの症状に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 理解と発話の両面での失語症状が生じる。
- 2 人を人と思わなくなる気持ちが生じる。
- 3 近時記憶の著しい低下が生じる。
- 4 視覚的な幻覚が頻繁に生じる。
- 5 他者との関係を強めようとする傾向が生じる。

問題 14 心理療法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 回想法は、高齢者の自動思考を修正することを目的としている。
- 2 応用行動分析は、個人の無意識に焦点を当てて介入を行っていく。
- 3 認知行動療法は、クライアントの人生を振り返ることでアイデンティティを再確認していく。
- 4 森田療法は、不安をあるがままに受け入れられるように支援していく。
- 5 ブリーフセラピーは、未来よりも過去に焦点を当てて介入を行っていく。